

Project 34	地域教育専攻 Enjoy Study プロジェクト ～協力の王様を目指そう～ ～みんなで作ろうゆめのまち～
メンバー	[学 生] 西宮 奈那 / 小川 未菜美 / 中川 萌々香 / 小林 茉鈴 / 熊谷 球人 / 板垣 聡一郎 / 土井 宏太郎 [担当教員] 吉村 功
<p>【背景】 最近の児童の課題として、インターネットの普及とコロナ禍によって一人でいる時間が増え、児童が自発的に友達と交流したり協力したりする機会が減ったことが、小学校の校長先生より挙げられた。そこで、子どもたち同士が共通の課題を通して、「協力」をテーマにした活動を行うことにした。なお、前期のプロジェクトで子どもたちが絵を描く活動に意欲を強く示したことから、後期のプロジェクトでは、想像力を使って絵による表現力を高め、協調性を伸ばすための活動を考えた。</p> <p>【目的】 活動を通して協調性を身につけ、想像力や表現力を高める。</p> <p>【概要】 前期プロジェクトでは、「協力」をテーマにしたゲームを行い、様々な視点から皆で協力しながら結束力を高めつつ、自発的に友達との交流を増やすことを目的として取り組んだ。 後期プロジェクトでは、自分たちの住む理想の町を考え、そこに必要な公共施設や自身の家、各自が欲しい物や建物等を自由に描いていき、それらを1枚の大きな画用紙に貼りつけ、ひとつの大きな町をつくる活動を行った。その中で、なぜこの建物が必要なのか、画用紙に貼りつけるときにどんなねらいがあってこの位置に貼ったのかを交流しながら進めていった。</p>	
<p>【プロセスと成果】 前期のプロジェクト名は「Enjoy Studyプロジェクト～協力の王様を目指そう～」である。 第1回は、「協力に必要な傾聴する力を養う」ことをねらいとして活動を行った。しかし、私たちの準備不足や課題から外れる子どもたちへの対応力の低さが相まって、段取りが悪くなってしまった。そのため、次回に向けて綿密に計画を立てるといった反省点があげられた。 第2回は、「ゲームの中で、チームごとに教えあったりどうしたらうまくいくか相談しあって、共通のミッションをクリアしよう」というねらいのもと活動を行った。前回はあまり意欲的でなかった児童が今回は意欲的に取り組む姿が見られた。またホールを走り回ってしまう等の児童にもスムーズに対応できた活動であった。 第3回は、「想像力を働かせて、相手の気持ちを読み取ろう」というねらいのもと活動を行った。ジェスチャーリレーでは、大きく体を動かして、お題を伝えようと表現していた。一方で、自分のジェスチャーが相手に伝わらず、泣いてしまった児童への対応が遅れたため、このような場面での児童への配慮を考えなければならないという反省点が挙げられた。また、時間配分のミスにより、最後に予定していた活動を行うことができなかった。そのため、1つの活動に要する時間を多めに見積もるといった反省をした。 第4回も、「想像力を働かせて、相手の気持ちを読み取ろう」というねらいのもと活動を行った。子どもたちは、静かに集中して指示を聞き、お題をきちんと伝えるために工夫したヒントを出そうと取り組んでいた。しかし、自分の描いた絵に自信が持てず、絵を見せない子がいたり、お題が難しく描けない子がいたりしたため、ヒントを準備する等の支援が必要だといった反省があった。 後期は、前期の地域プロジェクトの活動の中で、絵を描く活動に子どもたちが興味関心を示していたことから、絵を描く活動を通して表現力を養い、みんなで協力してひとつのものを作り上げることをねらいとした活動を進めていくことにした。活動名は「みんなで作ろうゆめのまち」である。 第1回の活動では、自分たちの似顔絵を描き、一人一人が一番描きたい建物の絵を発表した。子どもたちは、似顔絵や自分たちが考えた建物の絵を積極的に描いていた。 第2回の活動では、自分たちが住んでいる町にある公共施設は何があるかを考え、自分が将来住む町に必要な公共施設を描いた。しかし、「公共施設」という言葉の意味が子どもたちに伝わらず、児童たちは公共施設ではない建物を描いてしまっていた。そのため、児童に言葉の意味を分かりやすい表現で伝える必要があったと反省した。</p>	

第3回の活動では、自分が住みたいと思う理想の家を考えて描いた。児童の中には、現実的な家を描く児童もいれば、自分の好きなものに包まれたファンタジーな世界の家を描く児童もいた。

第4回は、自分の好きな物や建物を自由に描いたり、今までに描いた絵を切ったり貼ったりする活動であり、子どもたちはこれらの作業を積極的に行っていた。しかし、貼る作業をする際に、周りの児童同士で相談するという活動が少なく、なぜその建物が必要なのかを考えることができなかった。

第4回の活動の反省を活かし、第5回の活動で、何の建物をどこに貼るか話し合いをさせたり、相談をさせたりしながら作業を行った。その結果、この建物の周りにはこの建物があったら嬉しいな、というようにどのようにしたら町が良くなるのかを主体的に考えながら活動を行うことができ、最終的に夢の町を完成させることができた。



【ゲームをしている様子(前期第3回)】



【みんなで貼り付けている様子(後期第5回)】

【総括と反省・今後の課題】

前期は、友達の考えを想像しながら行った4回の活動を通して、当初の目的である「協力することの大切さ」を少しずつ達成することができるようになった。1回目の活動に比べ、回数を重ねるごとに協調性のある行動や、相手を考える言動が増えた。反省点としては、説明を聞く際の集まりの悪さや友達同士での会話が目立ち、学生の話に集中しないことがあった。そのため活動の進行が遅れ、スケジュール通りに進まないことが最後まで続いたことが課題として挙げられた。後期に向け、これらの課題を解決するために、「話を聞くことをルールとして明確に示す」、「活動時間を多めに見積もる」という対策を行った。また、各回で異なる活動を行ったことにより、活動に統一性が無いという指摘を受けたため、後期では1つの大きな課題に向けて行う活動を計画した。

後期では、子どもたちは話し合いをしながら将来住みたい町を考えたり、その町をより良くするためにはどうすれば良いのかを主体的に考えたりした。また、具体的な町の構成から空想上の町の構成まで、様々な視点で将来住みたい町を考え、絵によってこれらを表現した。回数を重ねるごとに、積極的に活動に参加する児童が増えていった。反省点は、学生が望む活動イメージが児童に伝わるのに時間がかかったことにより、児童の活動に対するモチベーションの維持を保つことができなかったこと、児童同士に話し合いを設ける時間が少なかったため、児童全員でイメージを共有しながら町を作ることが難しくなったことである。さらに、参加に積極的でない児童に対する対応の遅れがみられたことも反省点として挙げられた。これらの原因は児童との連絡不足によるものなので、児童に分かりやすい表現で伝えたり、要点を整理して説明したりして児童に理解させる必要がある。そのため、今後は児童への伝え方を工夫して接していきたい。

【地域からの評価】

前期の活動は、活動ごとにレベルアップしていけるように全て異なる活動を設定し、子どもたちからしても毎回様々なゲームができ、楽しいプロジェクトになったのではないかという意見が出た。一方、各回の活動内容が異なるため、どのように成長したのかが分かりづらいとの指摘があった。

後期では、「自分が理想とする町をイメージし共有する活動がとても良い」、「子どもたちにとって、想像力を育んだり将来について考えたりする良いきっかけになったと思う」などの意見を頂いた。また、回数を増すごとに、子どもの主体性や意欲が高まったという部分にも、プロジェクトメンバーの頑張りを感じたという意見も頂いた。

【年間スケジュール】

■前期

- 5月25日第1回「耳をすませて音を奏でよう」
- 6月 8日第2回「作戦を立てて実行しよう！」
- 6月22日第3回「考えよう、伝えよう、読み取ろう①」
- 6月29日第4回「考えよう、伝えよう、読み取ろう②」

■後期

- 10月19日第1回「はじまりのまちづくり」
- 11月 2日第2回「必要なものづくり」
- 11月16日第3回「わたしのゆめの家」
- 12月14日第4回「ほしいなこんなもの」
- 12月21日第5回「みんなであつこうゆめのまち」

